

正しいことを、楽しく。
森ライ白書 2015



森のライフスタイル研究所

index

- P2 誰もが森とかかわれる社会をめざして
- P3 木にふれる、木をまなぶ、木をつかう
- P4 正しいことを、楽しく
- P5-6 市民と企業による森づくりの活動フィールド
- P7 市民による森づくりプロジェクト
 - ①長野県佐久市大沢財産区 大沢の森
 - ②長野県東御市田之尻 どんぐりの森
 - ③長野県木島平村カヤの平高原牧場 スナの森
 - ④長野県伊那市富県 アカマツの森
 - ⑤長野県佐久市大沢財産区 薪（たきぎ）の森
 - ⑥千葉県山武市蓮沼殿下海岸 津波被害林
- P10 ⑦東京都檜原村 藤倉地区、時坂峠 ツリークライミング体験会
⑧長野県佐久市 スキルアップ講習会
- P11 企業による森づくりプロジェクト
 - 前田建設工業株式会社新入社員研修（千葉県山武市蓮沼殿下海岸）
 - 総合警備保障株式会社（アルソック）創立 50 周年記念植樹（千葉県山武市蓮沼殿下海岸）
 - シティグループ Global Community Day（千葉県鴨川市大山千枚田）
 - 株式会社ルミネ 環境活動（長野県木島平村カヤの平高原牧場）
- P12 伊藤忠建材株式会社 地球樹の森づくり 7 月（長野県木島平村カヤの平高原牧場）
 - 積和建設東関東株式会社 環境活動（千葉県山武市蓮沼殿下海岸）
 - 株式会社キッツ 社会貢献活動（千葉県山武市蓮沼殿下海岸）
 - コスモ石油エコカード基金 エコツアー（長野県伊那市富県）
- P13 藤忠建材株式会社 地球樹の森づくり 10 月（長野県木島平村カヤの平高原牧場）
 - 豊田通商株式会社 社会貢献活動（千葉県山武市蓮沼殿下海岸）
 - グローリー株式会社 社会貢献活動（長野県佐久市大沢財産区）
 - 前田建設工業株式会社 社会貢献活動（長野県佐久市大沢財産区）
- P14 母と子の野外体験プロジェクト
- P15 企業の木づかい活動プロジェクト（社員参加型 環境・社会貢献活動プログラム）
積み木づくりプログラム
- P16 箸づくりプログラム
カリンバづくりプログラム
- P17 数字で見る、森ライ 2015 年の森づくり
- P18 森ライ森づくりツアー参加者のスロファイル

message

誰もが森とかかわれる社会をめざして

森のライフスタイル研究所の設立は、2003 年。2005 年に特定非営利活動法人、いわゆる NPO 法人になり 2016 年で設立 13 年を迎えます。人間でいえば小学校から中学校にあがる歳になりました。

設立当初は、「木を伐り、森林を未来の資産に」をスローガンに木質バイオマス（ペレット）の利用促進を主たる事業とし、2003 年から 2009 年までに、長野県内の二つの木質ペレット燃料工場の操業と 1,000 台を超えるペレットストーブ・ボイラーの普及に携わってきました。再生可能なエネルギー源である木質バイオマスを活用することで、化石燃料の使用量を削減し二酸化炭素排出量を抑制。木材を利用することで森林整備も進み、日本の森林を守り育てることもつながります。

しかし、その活動を繰り返す中で、一般の人々の森や林業への関心がとても低いことに気がきました。とくに都会に住む若い人たちは、そもそも森の中に入ったことがない方が多く、関心が薄いというより、“森”という存在を知らないのだということに思いあたりました。いくら、森林を守ろう、木を使おうと叫んだところで、実感がなければ「自分ごと」としてとらえることができません。

そこで、森のことを「自分ごと」としてとらえてもらおうと、2009 年から街に住む若い人を中心とした森づくり活動をスタートさせました。自分たちの手で木を植え、木を育てていく体験の中で、木にふれ、木をまなび、木をつかっていくことで、日本の森林を少しずつよくしていけるのではと考えたのです。佐久市大沢地区の台風被害にあったわずか 0.1ha の森づくりからスタートし、現在は佐久市大沢地区だけでなく、東御市田之尻地区、木島平村カヤの平高原牧場、伊那市富県地区、千葉県山武市の津波被害林など数多くのフィールドで市民や企業の皆さまと一緒に森づくり活動を展開しています。

また、アウトドア体験がしたくてもなかなか実現できずにいる母子家庭のお母さんと子ども達に野外活動を体験してもらう「母と子の野外体験プロジェクト」も 2014 年からスタートさせました。このプロジェクトを通じて、森や自然に興味を持つ子どもたちがたくさん育っていくことを願っています。

さらに、企業の皆さまに向けた社員参加型の環境・社会貢献活動プログラムのご提供も本格化し、数多くの企業の皆さまに、終業後の時間やお昼休みを利用して積み木やカリンバ、箸の加工と仕上げを行っていただき、完成品を各地の保育園、幼稚園、児童養護施設等に寄贈させていただいています。

2015 年はこれらの 3 つの事業を柱とし、誰もが森とかかわっている社会の実現をめざし活動を続けました。2016 年も、さらに多くの人たちと共に活動を繰り返していきたいと願っています。

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 代表理事所長 兼 遊撃隊員 竹垣英信



Policy

正しいことを、楽しく。いつまでも続けられる森づくりを！

春に種を蒔いて、秋には収穫できる「一年一作」の農業とは違い、森を守り育てる林業は「百年一作」といわれる仕事です。植えた苗が育ち、豊かな森になるのは、子どもや孫の代。森づくりは、気長に続けていかなければなりません。しかし、大変なことばかりでは、息が切れてしまいます。森のライフスタイル研究所は、正しいことに楽しいこともプラスすることで継続的に森づくりに携われるようにしたいと思っています。「正しいことを、楽しく」というスローガンを掲げ、人々と森づくりをいつまでも続けていくことが私たちの使命です。

木にふれる、木をまなぶ、木をつかう。

森のライフスタイル研究所では、木にふれること、木をまなぶこと、木をつかうという3つのポリシーのもとに森づくりの活動を展開しています。



森づくり活動には、救急救命士を帯同しています。

森づくりの作業には危険がつきものです。傾斜の急な足場の悪い場所で、鋸や鎌などの刃物を使った作業を行います。伐った木が思わぬ方に倒れてくることもあります。また、夏期は熱中症やスズメバチにも気をつけないとけません。森のライフスタイル研究所では、万一の事態に対応できるよう、救急救命士を帯同させています。



Core competence

活動の3つの柱

森のライフスタイル研究には、3つの活動の柱となるプロジェクトがあります。第一の柱が2009年より継続して行っている「市民や企業による森づくりプロジェクト」です。そして第二の柱が、シングルマザーの子育て支援である「母と子の野外体験プロジェクト」です。子どもとアウトドアで遊ぶ機会をを作れないシングルマザー世帯のために、自然に親しみ、自然の中で楽しく遊べる機会をご提供しています。そして第三の柱が、2014年からスタートした「企業の木づかい運動プロジェクト」です。昼休みやアフターファイブの時間を利用して社員参加型の環境・社会貢献プログラムをご提供しています。2015年は、この3つのプロジェクトを事業の柱に据えて活動を展開しました。

市民と企業による森づくりプロジェクト

2009年の長野県佐久市大沢地区での活動からスタートした活動です。都会に住む若い女性を中心とした一般参加者との森づくりや企業の環境貢献活動としての森づくりをサポートしています。長野県、千葉県（九十九里の津波被害林）のフィールドで植林から下草刈り、地拵えなどの活動を繰り返し続けています。



母と子の野外体験プロジェクト

シングルマザーの子育てを支援するプログラムです。母親だけでは、なかなか子どもをアウトドアで遊ばせるところがないという悩みを解決します。お母さんと子どもたちに植林や下草刈りをはじめとする様々なアウトドア活動を体験していただけます。



企業の木づかい運動プロジェクト

企業のCSRご担当者にとって、社員の活動参加率を高めるのは大きな課題です。森ライでは、社員の皆さまが参加しやすい昼休みやアフターファイブに会議室などで手軽に実施できる木づかいプログラムをご用意しています。積み木やカリンバなど国産材を使った玩具を作り、各地の児童施設等に寄贈し木育に役立てていただきます。社内融和、チームビルディングに役立てることができる活動です。



Fields

市民と企業による森づくりの活動フィールド

市民と企業による森づくりは、2009年から継続して展開している森のライフスタイル研究所の基幹となるプロジェクトです。森林や林業と縁が薄い都市部で生活する人たちと森へ行き、植林や下草刈りなどの森づくりを実際に体験していただくことを目的としています。自分の手で木を植え、汗を流しながら下草を刈ることで、テレビや雑誌、書籍、インターネットでは得ることができない、生きた知識を体得することができます。森林や林業、木材を使うことの意義を“自分ゴト”として考えることができる人たちを少しでも増やしていければと思っています。

森林や林業、木材のことを日頃からあたりまえのこととして考えられる人を増やすことが、日本の森林をよくしていくために必要不可欠なことです。もちろん、このプロジェクトでは、実際に森づくり活動を展開することで森林の整備も進んでいきます。林業就業人口が減少の一途をたどる中で、森林整備のスキルをもった人材を育成していくことも当団体の使命の一つと考えています。

2016年は、長野県を中心に千葉県、東京都の7カ所のフィールドで森づくり活動を展開しました。

① **長野県 佐久市 大沢財産区 大沢の森**

ヒノキの経済林づくりプロジェクト 2010～2015年（終了）

② **長野県 東御市 田之尻 どんぐりの森**

どんぐりの森 里山再生プロジェクト 2011～2015年（終了）

③ **長野県 木島平村 カヤの平高原牧場 ブナの森**

ブナの森づくりプロジェクト 2013年～

④ **長野県 伊那市 富県 アカマツの森**

アカマツの森 里山再生プロジェクト 2014年～

⑤ **長野県 佐久市 大沢財産区 薪（たきぎ）の森**

薪の森づくりプロジェクト 2014年～

⑥ **千葉県 山武市 蓮沼殿下海岸 津波被害に遭った海岸林**

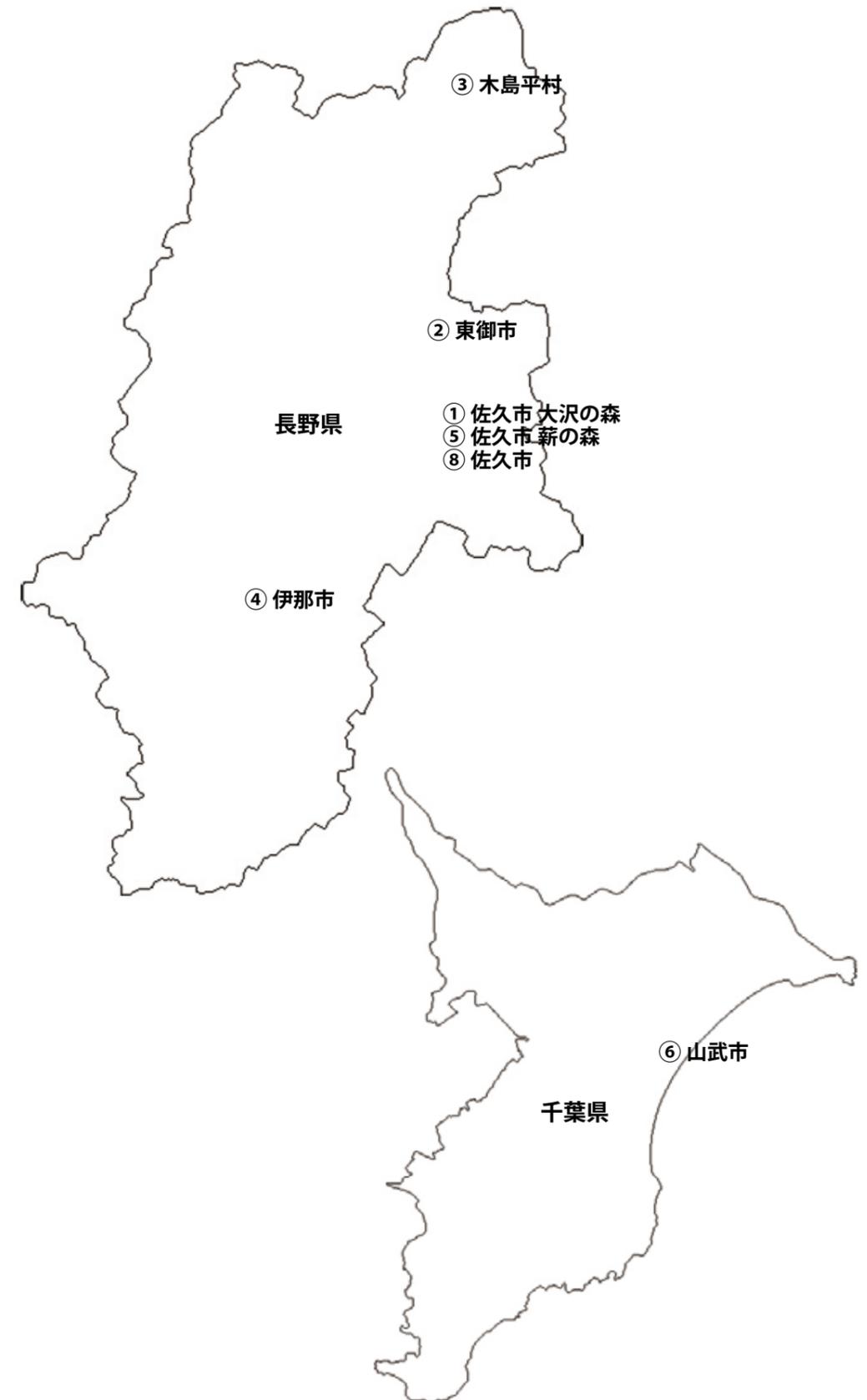
3.11 復活の森プロジェクト 2011年～

⑦ **東京都 檜原村 藤倉地区、時坂峠**

ツリークライミング体験会プロジェクト 2012年～

⑧ **長野県 佐久市**

スキルアップ講習会



市民による森づくりプロジェクト

① 長野県佐久市大沢財産区 大沢の森

ヒノキの経済林づくりプロジェクト 2010～2015年（終了）
長野県佐久市大沢財産区 約3ha
7月11日（土）下草刈り

2010年10月からスタートした、森ライの森づくりの中ではもっとも歴史の長いプロジェクトです。活動フィールドは、バブル期にレジャー施設開発計画の予定地となった約3haの森で、バブル崩壊後、その計画は白紙になりましたが、そのまま森の整備を怠ってしまったため荒廃した人口林となっていました。森のすぐ下を林道が通り経済林としての立地がよいため、地元住民の希望もあり、ヒノキを再植林しています。2011年（1,500本）、2012年（2,400本）、2013年（1,600本）、2014年（1,650本）の4回にわたり合計7,150本のヒノキの苗を植林。2015年7月に最後の下草刈り活動を行い、あとの育成は地域の皆さんにお任せすることになりました。



協力：NPO法人 信州そまびとクラブ
トヨタ自動車「トヨタ環境活動助成プログラム」、国土緑化推進機構「緑の募金」のご支援により実施しました。

② 長野県 東御市 田之尻 どんぐりの森

どんぐりの森 里山再生プロジェクト 2011～2015年（終了）
長野県東御市田之尻地区 約4ha
9月5日（土）下草刈り・ツル伐り

2010年5月に山火事によって焼失した約4haの山林を地域の皆さまと協力しながら2011年5月よりコナラ、クヌギ、モミジ、ヤマザクラなどの広葉樹を植林。地域の子もたちや大人が憩える森をつくるプロジェクトです。2013年までに約12,000本の広葉樹の苗木を植え、約4haの焼失林への植林を完了しました。2014年からは苗木に絡みつ়クズなどのツル性植物の除去や下草刈りの作業を行っています。植樹した苗は概ね順調に生育し、2011年に植樹したコナラは、どんぐりをつけるようになっています。信州大学の協力により行っている生物多様性調査でも国蝶であるオオムラサキや希少種の蝶やトンボなども確認されるなど、自然環境が山火事から順調に回復していることがわかりました。



コスモ石油「コスモ石油エコカード基金」のご支援により実施しました。

市民による森づくりプロジェクト

③ 長野県 木島平村 カヤの平高原牧場 スナの森

スナの森づくりプロジェクト 2013年～
長野県下高井郡木島平村 カヤの平高原牧場 未利用牧草地 約15.2ha
6月20日（土）21日（日）、9月12日（土）13日（日）、10月17日（土）18日（日）

1956年に木島平村が国有林約54haを借り受け、スナ原生林を開墾してつくったカヤの平高原牧場の未利用牧草地に、牧場の林縁部から掘り採ったスナの実生の稚樹を掘り採って移植するというユニークな森づくりにより元のスナの森に還そうとしています。牧草地は牧草の根が厚く堆積しているため、重機で表土を1m幅で剥ぎ取ってスナを移植しています。スナは生長が遅いため、森になるまでに長い時間がかかりますが誰かが手を動かさないと森にはなりません。カヤの平高原は、農業がさかんな木島平村の大切な水源の一つ。また、ツキノワグマ、カモシカ、ムササビなど多くの野生動物の棲家でもあります。スナの森を作ることによって水源涵養や生物多様性の実現にも貢献します。



長野県「地域発 元気づくり支援金」、
国土緑化推進機構「緑の募金」、三機工業「SANKI YOU エコ貢献ポイント」、UPS 基金のご支援により実施しました。

④ 長野県 伊那市 富県 アカマツの森

アカマツの森 里山再生プロジェクト 2014年～
長野県伊那市富県地区のアカマツ林 約12ha
5月23日（土）24日（日）、10月3日（土）4日（日）

伊那地方のアカマツは、かつては建材や炭の原料として活用され、アカマツ林内の落ち葉も焚き付けや堆肥用として重宝されていました。しかし、昭和30年代の燃料革命により山村部でも燃料が薪炭からガスや石油に変わり、落ち葉を集めて使うことがなくなりました。その結果、落ち葉が林内に堆積し土壌が富栄養の状態に変化。これは菌根菌（マツタケ菌）と共生しているアカマツにとって好ましい環境ではありません。富栄養化により菌根菌が衰退し、それまで豊富な収穫量があったマツタケも年々採れなくなりました。このプロジェクトでは地域の人々と協業し、柴かきを行い、林内の腐葉土や落ち葉を掻きだし、菌根菌を活性化させることでアカマツの元気を取り戻し、かつマツタケが採れる環境を取り戻すのが狙いです。山村地域の経済活性化を目指します。



コスモ石油「コスモ石油エコカード基金」、UPS 基金のご支援により実施しました。

市民による森づくりプロジェクト

⑤ 長野県 佐久市 大沢財産区 薪（たきぎ）の森

薪の森づくりプロジェクト 2014年～

長野県佐久市大沢財産区 約2ha

4月18日（土）、7月25日（土）、11月14日（土）、12月5日（土）

薪ストーブの燃料を自分たちの森から採れたら自然エネルギーの地産地消になるのに！という地域住民の声にお応えして大沢財産区議会と進めているプロジェクトです。大きく育っていたヒノキは伐採して建材として出荷。跡地を地拵えしてコナラを植林し、将来、薪を生産することができる森に育てていきます。薪炭用なら植林後15年ほどで生産ができます。しかも広葉樹は伐った跡から萌芽更新するので、針葉樹のように再植林が不要です。持続的に自然エネルギーの地産地消が可能となります。4月に約500本のコナラを植林、7月には下草刈りを行い、11月・12月に2016年春に植林するエリアの地拵えを行いました。



協力：NPO法人 信州そまびとクラブ

トヨタ自動車「トヨタ環境活動助成プログラム」、国土緑化推進機構「緑の募金」のご支援により実施しました。

⑥ 千葉県 山武市 蓮沼殿下海岸 津波被害林

3.11 復活の森プロジェクト 2011年～

千葉県山武市蓮沼尾下海岸 2015年造成地 約0.8ha

1月17日（土）、2月21日（土）、3月15日（日）、7月4日（土）、8月29日（土）

東日本大震災による津波のため、赤枯れを起こした海岸林を再生するプロジェクトです。2010年8月より活動を開始し、多くの市民ボランティア、企業ボランティアに支えられて2015年末までに約2.6haの再植林を終えました。2015年の植林面積は森ライ一般参加者による約0.6haとアルソック様による約0.2ha、さらに前田建設工業様の新入社員研修の一環で約0.3haを植林したので、合計約1.1haとなりました。植林面積が増える度に、夏の下草刈り面積も増えていくのが大きな課題となっています。そのため2015年は一般参加の活動とは別に有志による下草刈り活動も実施しました。植林後の抵抗性クロマツは概ね順調に生育していて、2012年に植林を行ったエリアでは大人の背丈近くまで生育しています。



公益財団法人 JKA「ring! ring! プロジェクト」、日本郵便「年賀寄附金配分事業」、

TOTO「TOTO水環境基金」、国土緑化推進機構「緑の募金」、UPS基金のご支援により実施しました。

市民による森づくりプロジェクト

⑦ 東京都 檜原村 藤倉地区、時坂峠

ツリークライミング体験会プロジェクト 2012年～

東京都西多摩郡檜原村

4月19日（日）、11月21日（土）

ツリークライミング体験会は、2012年から毎年、数回実施している株式会社 東京チェーンソーズとの共同イベントで、ツリークライミングジャパンの公認体験会となっています。木に登ることで、森や自然に親しみ、森に興味をもってもらうために開催しています。2015年は4回開催の予定でしたが、悪天候のため5月と9月のイベントがキャンセルになり2回だけの開催となりました。4月は檜原村のいちばん北にある藤倉地区の桜尾根で、11月は弘沢の滝近くの時坂地区にある東京チェーンソーズの社有林で開催しました。体験会終了後には、森へ恩返しの意味を込めて毎回「プチ林業体験」を実施しています。地拵えのお手伝いや道普請などを行い、林業という仕事が木を伐るだけでないことを実体験とともに知ってもらっています。



協力：株式会社 東京チェーンソーズ

⑧ 長野県佐久市 スキルアップ講習会

長野県佐久市 2015年～

8月30日（日）、11月29日（日）、12月20日（日）

森ライが森づくり活動を開始して7年。その間に植林面積も増え、下草刈りも手鎌では間に合わなくなってきました。また、参加者の中には森づくりの技術や知識をもっと高めたいという意欲がある人も出てきています。そこで、将来、活動のリーダーとして活躍できる人材を養成するためにスキルアップ講習会を3回にわたって開催しました。講師にはNPO 信州そまびとクラブの工藤孝一代表にお願いし、第1回は刈払機による下草刈り作業、第2回と第3回はチェーンソーによる間伐作業を座学と実地研修により学びました。機械の構造やメンテナンス方法、安全な使い方など基本的なことから、実際の現場での応用まで幅広く学ぶことができました。森ライの活動でチェーンソーを使った間伐を行うことはありませんが、危険予知や安全確保の上でいい経験を積むことができました。



協力：NPO法人 信州そまびとクラブ
かんぼ生命のご支援により実施しました。

企業による森づくりプロジェクト

前田建設工業株式会社

新入社員研修 4月3日(金)4日(土)
前田建設光が丘研修センター(講義)
千葉県山武市 蓮沼殿下海岸(植林)

2012年から毎年、お手伝いしている前田建設工業の新入社員研修。今年は研修エリアを MAEDA の森 佐久がある長野県佐久市から千葉県山武市蓮沼殿下海岸の津波被害林に場所を変えて実施しました。前日に海岸林に関する講義を行い、翌日にクロマツ約4,000本の植樹を行いました。



総合警備保障株式会社(アルソック)

創立50周年記念植樹 4月12日(日)
千葉県山武市 蓮沼殿下海岸(植林)

警備、セキュリティサービス会社のアルソック(総合警備保障株式会社)が創立50周年記念の社会貢献活動で、100名を超える社員が参加して蓮沼殿下海岸で植林を行いました。当日は、来賓として山武市長もお見えになり、青山幸恭代表取締役社長と共に記念植樹を行いました。



企業による森づくりプロジェクト

伊藤忠建材株式会社

地球樹の森づくり 7月17日(土)18日(日)
長野県木島平村 カヤの平高原牧場(ブナ移植)

伊藤忠建材は、木島平村と「森林の里親協定」を締結し2013年10月から「地球樹(ちきゅうぎ)の森」と名付けた約2haの未利用牧草地をブナの森に還す活動を展開しています。7月の森づくりでは新入社員を中心に28名の社員が参加し、ブナ稚樹の掘り採りと移植作業を行いました。



積和建設東関東株式会社

環境活動 7月29日(水)
千葉県山武市 蓮沼殿下海岸(下草刈り)

積水ハウスグループの施工会社で、千葉県八千代市に事業所がある積和建設東関東株式会社エクステリア事業部の有志社員による津波被害林造成地の下草刈り活動です。2013年から毎年欠かさずボランティア活動を実施していただき、海岸林の育成を見守っていただいています。



シティグループ

Global Community Day 6月6日(土)
千葉県鴨川市 大山千枚田(竹林伐採)

Global Community Day は、世界的な金融グループであるシティが全世界で開催している、社員とその家族によるボランティア活動。2012年から運営のお手伝いをしています。今年は大山千枚田の耕作放棄され竹林化した棚田を復活させる活動に従事。約70名が参加し、竹の伐採に汗を流しました。



株式会社ルミネ

環境活動 6月27日(土)
長野県木島平村 カヤの平高原牧場(ブナ移植)

ファッションビル運営会社のルミネの環境活動「choroko」(チョロコ)の一環として社員やテナントのスタッフ合わせて54名によりカヤの平高原牧場の未利用牧草地をブナの森へ還すための移植活動を行いました。牧草地の林縁部からブナの稚樹を掘り取り、未利用牧草地に移植しました。



株式会社キッツ

社会貢献活動 8月22日(土)
千葉県山武市 蓮沼殿下海岸(下草刈り)

千葉県に本社がある世界的なバルブ製造メーカーであるキッツは、2012年から社会貢献活動の一環として毎年、蓮沼殿下海岸の津波被害林復興にご助力いただいています。2015年は社員とご家族34名が参加し、海岸林植栽地の下草刈りを実施しました。



コスモ石油エコカード基金

エコツアー 10月3日(土)4日(日)
長野県伊那市 富県(アカマツ林整備・菌根菌調査)

コスモ石油では、エコカード会員から集めた基金により様々な環境貢献活動を展開しています。森ライとは2014年より長野県伊那市でアカマツ林の再生活動を実施。2015年もエコカード会員とコスモ石油社員、森ライ一般参加者、合わせて31名が活動に参加しました。



企業による森づくりプロジェクト

伊藤忠建材株式会社

地球樹の森づくり 10月10日(土) 11日(日)
長野県木島平村 カヤの平高原牧場 (ブナ移植)

2015年、2回目の伊藤忠建材の地球樹(ちきゅうぎ)の森づくり活動は、地球樹プロジェクトメンバーと社内公募の社員ボランティア、28名が参加。秋の色に染まった標高1,500mのカヤの平高原でブナの移植を行いました。2015年の2回の活動で合計2,500本のブナ稚樹を牧草地に移植しました。



グローリー株式会社

社会貢献活動 11月14日(土)
長野県佐久市大沢財産区 薪の森 (地拵え)

金融機関向けの通貨処理機や情報処理機などの開発製造、販売を行っているグローリー株式会社は、森ライ一般参加者と合同で薪の森の2016年植栽予定地の地拵え活動に参加。東京本社だけでなく埼玉工場からも大型バスで社員ボランティアが参加し、総勢45名が晩秋の森で汗を流しました。



文中、敬称略。

豊田通商株式会社

社会貢献活動 10月25日(日)
千葉県山武市 蓮沼殿下海岸 (伐採・地拵え)

トヨタグループの総合商社、豊田通商が社会貢献活動の一環で九十九里海岸の津波被害林復興プロジェクトに参加してくださいました。社員とご家族33名が2016年植栽予定地に残っている立ち木を手鋸で伐採。玉切りをして整理し、植林のためのスペースづくりを行いました。



前田建設工業株式会社

社会貢献活動 11月15日(日)
長野県佐久市大沢財産区 薪の森 (地拵え)

佐久市大沢財産区と森林の里親協定を締結し、大沢財産区の森林整備を展開している前田建設工業が毎年行っている森づくりです。2015年は、社員とご家族55名が参加し、翌年の春に植林をするフィールドの地拵え作業を行いました。林内の残材を手鋸で玉切って運び出し、整理していきます。



母と子の野外体験プロジェクト

シングルマザーの声にお応えした子育て支援 母と子どもがいっしょに自然に親しみ、自然を学ぶプロジェクト

2014年からスタートした「母と子の野外体験プロジェクト」。2015年も福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」、「2014年度ドコモ市民活動への助成金」からのご支援を受け継続して実施することができました。このプロジェクトは、シングルマザー世帯では子どもを野外に連れて行って遊ばせることができないという悩みを解決するもので、お母さんたちの要望にお応えする1dayのアウトドア体験プログラムです。子どもたちは、経験豊かなインストラクターと一緒にのびのびと自然環境の中で遊んで学び、お母さんたちも忙しい日常から離れ、自然の中でお母さんどうしの親交を深めてもらう企画です。2015年は11回の活動を実施。たくさんのお母さんたちがお母さんといっしょに自然を楽しみ、森や木、農業などの知識を深めることができました。

2015年 母と子の野外体験 活動一覧

1月18日(日)	東京都日の出町	紙漉き体験
1月25日(日)	東京都あきる野市	雪あそび
2月22日(日)	千葉県山武市蓮沼	植林(300本)+イチゴ狩り
4月26日(日)	千葉県長生郡長柄町	森林体験(ターザニア)
7月12日(日)	千葉県鴨川市大山千枚田	竹林整備、流しソーメン、食器づくりなど
8月23日(日)	千葉県山武市蓮沼	下草刈り
9月26日(土)	山梨県富士河口湖町	釣り体験
10月24日(土)	東京都あきる野市	野菜収穫体験
11月1日(土)	山梨県富士河口湖町	ほうとうづくり&鳴沢氷穴探検、樹海散策
12月13日(日)	埼玉県鶴ヶ島市	落ち葉集め、有機農家のお手伝い
12月27日/28日	静岡県裾野市	スキー・雪あそび(スノータウンイエティ)



企業の木づかい運動プロジェクト

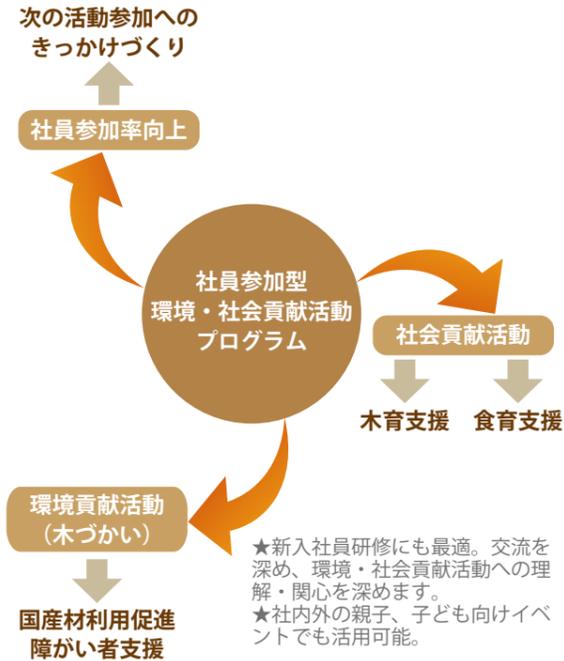
アフターファイブや昼休みを利用した 社員参加型 環境・社会貢献活動プログラム

森のライフスタイル研究所では、アフターファイブ、昼休み時間を利用して社内の会議室・食堂などで60～90分程度で実施できるお手軽な社員参加型プログラムをご提供しています。完成品を幼稚園や保育園、児童養護施設等に寄贈することで環境保全、子ども支援、障がい者支援など社会貢献が可能です。

- 社内で手軽に実施でき社員参加率が向上。
- 次の活動へ参加のきっかけづくり。
- 社内交流やチームビルディングにも有効。
- 国産材使用により自然環境保全に貢献。
- 完成品を寄贈することで木育や食育を支援。
- 障がい者支援*にも貢献。

*積み木のピースの切り出し、レーザー加工による名入れなど。

プログラムの所用時間は、森ライフスタッフによるオリエンテーションを含め60～90分程度。会議室、食堂など大きめのテーブルがある場所ならどこでも実施可能。



積み木づくりプログラム

障がい者施設で作成した国産スギ材を使った半完成品の「積み木」を紙やすりでみがき、完成品にして各地の幼稚園や保育園、児童養護施設等に寄贈する社員参加型プログラムです。

収納木箱には会社名やブランドロゴが焼印加工で1ヵ所に入ります。

- 木づかい…国産材の活用
- 木に親しむ
- 木育支援…木に親しみながら創造性を育成
- 障がい者支援
- 社内交流やチームビルディング
- 新入社員研修

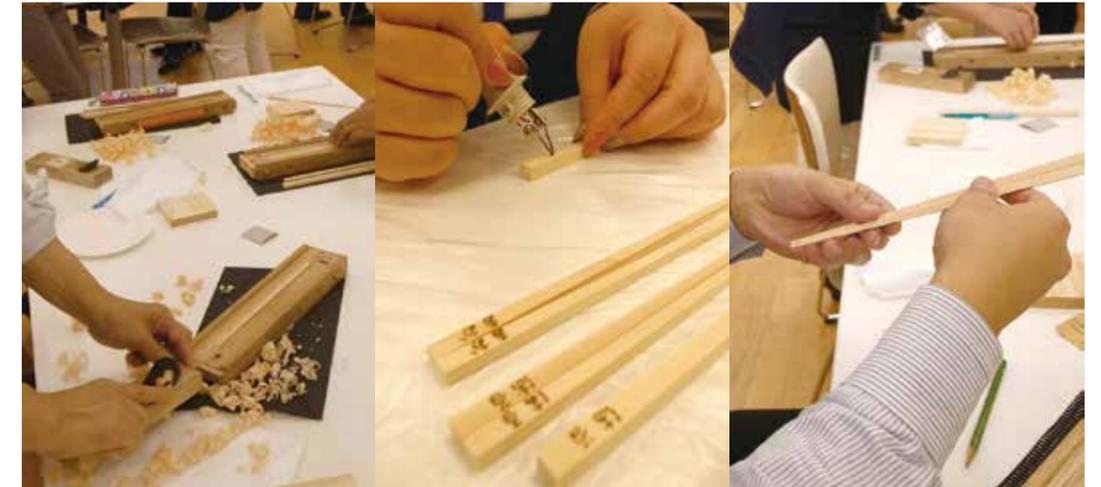


企業の木づかい運動プロジェクト

箸づくりプログラム

国産ヒノキ材を特製の鉋で削り、箸を作ります。大人用の24cm長さを鋸で切ること子ども用の箸も作成できます。箸に焼きゴテで名前を記入できます。また、削り屑を袋に詰め、ヒノキの香りがするサシェづくりやビーズ（スワロフスキー）などを貼り付けるデコ箸づくりも可能です。

- 木づかい…つくった箸を暮らしの中で使用
- 木に親しむ
- 子ども向けイベントにも最適
- 完成品を幼稚園・保育園に寄贈し、木育・食育を支援



カリンバづくりプログラム

国産ヒノキ材を台座部分に使用したカリンバ（アフリカの民族楽器）を作成します。台座部分に企業名、ブランドロゴなどの名入れが可能です。

- 木づかい…つくった楽器を暮らしの中で使用
- 木に親しむ
- 子ども向けイベントにも最適
- 完成品を幼稚園・保育園に寄贈可能
- 社内交流やチームビルディングを実現
- 障がい者支援



数字で見る、森ライ 2015 年の森づくり

4,005 人 延べ参加人数

企業向けの木づかい活動プロジェクトの実施が本格的に動き出し、昨年の 2,317 人から大きく増加しました。木づかい活動プロジェクトへの参加をきっかけに、森づくり活動に興味を持ち、参加して下さる方も多く見受けられました。

109 回 活動回数

企業向けの木づかい活動が加わり、昨年の 77 回より活動回数が大きく増えました。また、昨年は悪天候のため 5 月と 9 月のツリークライミング体験会が中止となっています。

14,200 本 植樹本数

千葉県山武市 蓮沼殿下海岸の津波被害林造成地に抵抗性クロマツを 8,000 本、長野県佐久市大沢の薪の森にコナラを 700 本を植樹。長野県木島平村のカヤの平高原牧場にブナ稚樹 5,500 本を移植しました。



16 回 森ライ森づくりツアー回数

2015 年は昨年より 1 回少なく 16 回でした。千葉県山武市蓮沼殿下海岸が 5 回、長野県佐久市大沢が同じく 5 回、長野県伊那市富県が 2 回、長野県東御市田之尻が 1 回、長野県木島平村が 3 回です。

545 人 一般参加の森づくりツアー延べ参加人数

開催回数が 1 回少なかったことありますが、昨年より 100 人近く減少しています。1 泊の活動が 5 回あったことも原因かと思えます。また、東日本大震災から 4 年が経ち、社会的なボランティア参加熱が下火になってきたことも感じます。一方で企業単位での森づくり活動の回数が増え、全体で見ると参加者増です。※ツリークライミング体験会も含む数字です。

485 人 企業の森づくりツアー延べ参加人数

企業単位で実施した森づくりは 12 回と増加し、延べ参加者も 485 名になりました。毎年、定期的に森づくり活動を行って下さる企業も増えています。

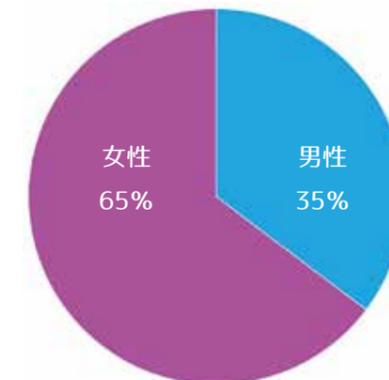
361 人 母と子の野外活動ツアー延べ参加人数

シングルマザー家庭向けの野外活動ツアーは 11 回開催し、延べ 361 人のお母さんと子どもたちが植林や農業体験を通じて自然に親しむことができました。

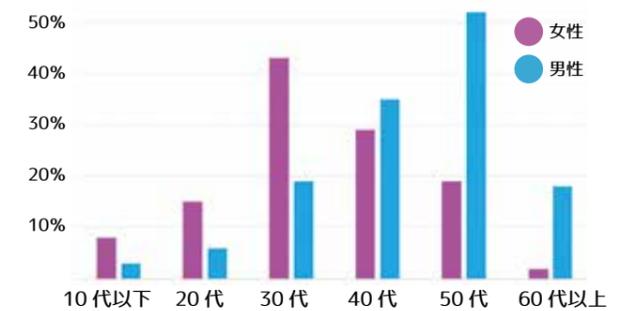
森ライ森づくりツアー参加者のプロフィール

2015 年も森づくりツアーの参加者男女比は、一般参加者のみを集計すると女性 65%、男性 35%と女性比率が高くなっています。しかし企業から参加された参加者も含めると女性 46%、男性 54%となり、男性比率が高くなります。また、年代別では、女性は 30 代の比率が高く、20 代と 30 代で過半数を占めています。男性は 50 代の比率が高く、50 代と 60 代で過半数を占め、女性に比べて参加者の年齢層が高くなっています。この傾向は昨年と変わりません。参加者数は減少傾向で、一つの理由に東日本大震災から 5 年が経ちボランティア離れの傾向があることや森林整備活動はすぐに結果が出るものではなく、特に植林後は 5～7 年間は夏の暑い盛りの下草刈りのみの活動となるため新鮮さが薄れてきていることがあげられると思います。森を守り育てていくためにはこうした作業の積み重ねが必要であることを強くアピールするとともに参加者を飽きさせないアイデアや取り組みが必要となってきています。

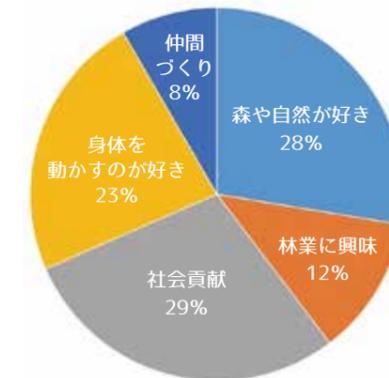
参加者の男女比



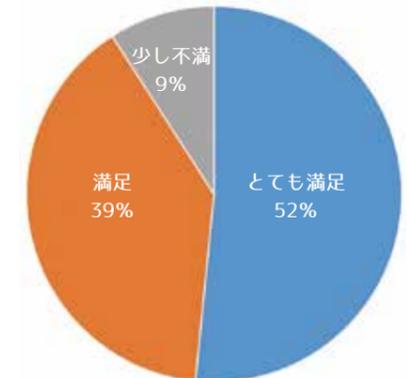
参加者の年代構成



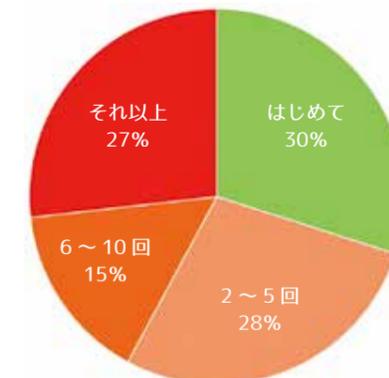
森づくり活動への参加理由



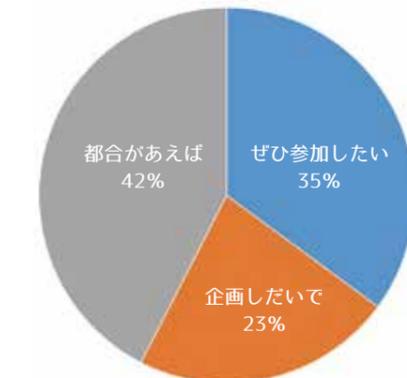
森づくりツアーの満足度



森づくりツアー参加回数



森づくり活動への次回参加意向





NPO 法人森のライフスタイル研究所

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2 丁目 7 番 19 号 田中保全ビル 101

TEL : 03-6457-5345 FAX : 03-6457-5346

<http://www.moridukuri.or.jp/>

【本部】長野 【オフィス】東京、栃木、京都、富士山

(2016.11.28)